



第1号様式(第8条関係)

補助金等交付申請書

令和6年11月25日

(宛先)
戸田市長

申請者

住所又は所在地



氏名又は団体名 戸田市福祉で防災ネットワーク
及び代表者氏名 会長 佐藤 太信



戸田市補助金等交付規則の規定により、次のとおり申請します。

補助年度	令和 6 年度	補助金等の名称	戸田市共創のまちづくり補助金
補助事業の目的及び内容		講演会の実施により、多くの方に避難所運営にあたってはどのような配慮が必要か等を知っていただき、共に過ごしやすい避難所運営の改善につながることを目的とする。	
補 助 事 業 等 の 効 果		避難所運営に福祉的な視点が入ることで、よりよい避難所づくりにつなげていく。	
補助事業等の対象事業費		56, 946円	
補 助 金 額		50, 000円	
補助事業等の着手年月日 及び完了年月日(予定)		着手 補助金交付決定後 完了 令和 7年 2月 15日	
添 付 書 類		1 戸田市共創のまちづくり補助金応募用紙 2 令和5年度事業報告 3 令和5年度収支報告書 4 令和6年度事業計画 5 令和6年度収支予算 6 名簿・規約	

第3号様式（第6条関係）

令和6年11月25日

戸田市共創のまちづくり補助金応募用紙（SDGs 応援事業補助）

（宛先）

戸田市長

団体名 戸田市福祉で防災ネットワーク

代表者職・氏名 佐藤 太信

所在地



事業名	福祉防災講演会	
SDGs の 該当ゴール	SDGs ゴール 1 1 住み続けられるまちづくりを SDGs ゴール 1 7 パートナーシップで目標を達成しよう	
確定前交付の希望	☒ 希望する	☐ 希望しない
連絡担当者	氏名	
	住所	
	電話	
	Fax	
	E-mail	
ホームページ	http://	
設立年月日	2003 年 5 月設立	
会員数	8 人	
年会費	1,000 円／1 年間	
団体の目的	災害時に被害を最小限に抑えるのに重要とされている自助（自らの安全は自分で守る）と、共助（周囲の人たちが協力して助け合うこと）。しかしながら、障害を持っている方やご高齢の方、乳幼児をかかえたお母さんのような災害時要援護者である方たちが、無事に避難所にたどり着くためには、どうすればよいのか？避難所での余計なストレスを減らすには？など、会員同士で話し合いや市役所・地元関連施設職員・町会などと情報交換会を開催しています。	

主な活動実績	2023年 アクティブ避難 DAY (2/4) 2022年 アクティブ避難 DAY (2/5) 総会 (5/7) まちづくりでマイ講座開催「マイ・タイムライン作成講座」(6/4) 戸田市シェイクアウト訓練参加(9/1) 福祉避難所（戸田市福祉保健センター）見学会(9/4) 2021年 アクティブ避難 DAY コロナ蔓延により中止 ワークショップ「災害が起きた時に何を考える」開催(4/3) 戸田市シェイクアウト参加(9/1) 障害者向けスマホ講習会開催 「災害時用支援者制度と福祉避難所」講習会開催(12/1) 2020年 アクティブ避難 DAY を開催(2/1) 総会 佐藤会長が就任(7/4) 「戸田市防災基本条例(案)」に対するパブリックコメントを提出しました(12/3) 2019年 台風19号による水害が発生、避難所が開設されました(10/12) 2018年 アクティブ避難 DAY を開催(1/28) 国会議事堂見学会 2017年 とだ「見まもり」一斉防災行動訓練に参加(3/11) 2016年 東日本大震災の時原発事故で避難を余儀なくされた福島県双葉郡の川内村に宿を取り富岡町、大熊町、浪江町などを訪問、社会福祉協議会、ボランティア、障害者等と話し合い災害発生時、要援護者に情報をどう送ったか、避難させたか、避難所での対応など聞いて参りました。(8/7) 2015年 中越地震の小千谷市、長岡市山古志村訪問 2014年 いわき市、白河市、泉崎町訪問 2013年 東日本大震災被災地 女川町訪問 戸田市第3期地域防災ワークショップに参加 喜沢小学校防災キャンプ（おやじの会）に参加
---------------	--

	戸田市第3期地域福祉市民会議に参加 2012年 東京そなエリアでの学習 炊き出し訓練 2011年 3月11日東日本大震災発生 9月11日 3. 11シンポジウム開催 9月25日 戸田市総合防災訓練 氷川町 2010年 喜沢小学校防災キャンプ（おやじの会）に参加 戸田市総合防災訓練 笹目東小学校に参加 2009年 新曽小学校防災キャンプ（おやじの会）インフルエンザで中止 埼玉県防災学習センター（鴻巣）で学習 2008年 コンパル福祉避難所宿泊訓練 福祉避難所としての機能調査 学校の体育館にテレビ電話システムを使った情報提供訓練 テレビ会議システムで音声、手話通訳の画像、被災現場画像、字幕付 視覚障害者用色探知ステッキによる道案内実験 高齢者、障害者の疑似体験 肢体障害者支援のロボット体験（東京理科大小林教授グループ） 段ボールによる避難所での生活空間の確保体験 戸田市総合防災訓練 笹目3丁目町会に参加 2007年 中越地震被災地訪問（視覚、聴覚、障害者、ボランティア、社会福祉協議会の人達との対話集会）被災現場、仮設避難所視察 2006年 芦原小学校体育館で宿泊訓練 消防による防災訓練 小学生、肢体聴覚視覚障害者を交えた避難所体験 携帯の画像とインターネットでの情報提供実験 色を感知するステッキで視覚障害者への歩行案内 消防との防災訓練 2005年 福祉青少年会館で宿泊訓練（戸田市内公共施設での初体験） 戸田市お休み処1号地点での防災シンポジウム（まち研と共催） 2004年 災害時避難路の危険物調査
--	--

	2003年 5月災害弱者を支援する団体として発足 池袋防災館で学習 避難路の危険箇所調査
これまでの補助金等の援助状況	なし
団体PRなど	戸田市福祉で防災ネットワークは、障害のある当事者、関係者、関心のある方でメンバー構成されており、避難所体験の実施や防災訓練の参加を通して、改善すべき点を定例会において検証しています。 また、それぞれの障害の特性についての理解を深め、各障害者団体・ボランティア団体との連携を深める為、話し合いの場を設けており、市内全体において多様な視点から災害に対する備え、学びを進めています。

《事業企画書》

1 事業の目的・必要性・課題

SDGsの該当ゴール：11 住み続けられるまちづくりを
17 パートナリーシップで目標を達成しよう

現在の市内避難所は、障害のある方や医療的ケアが必要な方にとっては、避難所スタッフの認識不足、必要な設備や備品があるかがわからないこと、夜中に音を立てることがあり近くの方に迷惑をかける等、避難するにはためらうといった声を伺っている。講演会の実施により、多くの方に避難所運営にあたってはどのような配慮が必要か等を知っていただき、共に過ごしやすい避難所運営の改善につながることを目的とする。

2 事業の具体的内容

上戸田地域交流センターあいパルにて毎年実施する、「福祉で防災ネットワーク」事業として講演会を実施する。

講演会は、清泉女学院大学 北村千章先生を講師として以下の内容で講演を依頼を行う。

事業実施日：令和7年2月1日

開催場所：上戸田地域交流センターあいパル

対象者：市民対象

演題（予定）：「自治体の避難運営について考えること～障害のある方や医療的ケア児の災害時の避難体験を通して～」

講演時間：10～12時

周知方法：各公共施設にチラシ配架、市公式SNS

実施体制：戸田市福祉で防災ネットワーク会員で受付・会場設営等を実施。託児ボランティア受付予定。

その他には、避難所を想定した段ボールベッドの組み立て体験を実施する予定。

3 事業実施のスケジュール

月 日	内 容
12月7日	定例会
1月11日	定例会
2月1日	アクティブ避難デイ 講演

4 事業の成果目標（具体的数値を用いてください。）

- ・参加対象者は、定員50名を予定
- ・アンケートを実施後、市担当課に情報共有、今後の避難所運営につなげる。
アンケート内容については、会員内で共有し決定する。
- ・本講義を受けて学んだ受講生は、地域町会において「お願い会員・まかせて会員」の運用について再考を促すことを期待する。また、市は福祉避難所や指定避難所運営について、障害当事者や関係者の意見を伺いながらより良い方向を進めていただけることを期待する。

《収支予算書》

【収入】

科 目		予 算 額	内 訳
補助金・ 助成金	当補助金	50,000	
	その他		
自己資金		6,946	
会費			
利用者負担金			
協賛金・寄附		3,800	
その他			
合 計		60,746	

【支出】

	科 目	予 算 額	内 訳	
補 助 対 象 経 費	謝礼金	50,000	講師謝金（長野県からの交通費込み） 【交通費内訳】 須坂駅―戸田公園駅 片道 7,260 円 往復 14,520 円	
	消耗品費	4,086	試食用備蓄品	
	印刷製本費	2,860	チラシ印刷 5.72 円×500 枚= 2,860 円	
小 計		56,946	内 訳	補助金申請額：50,000 自主財源：6,946
補 助 対 象 外 経 費	使用料	3,800	ホール、和室	
小 計		3,800		
合 計		60,746		